

北海道檜山北高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和元年度に重点化した取組の実現状況・課題			
「5つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育 で人材を育てる 学校	①「生徒一人一人を一層成長させる」教育を行います。	地域で行われている行事へ参加する。	地域の販売会やボランティア活動に参加し、地域へ貢献する態度の育成をはかった。	地域の行事やボランティア活動に対して主体的に取り組めるような工夫や計画が必要。	5
	②「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	国際交流、海外農業実習等の情報提供を行う。	国際交流や海外農場実習等の案内を実施した。	本校からは未参加であった。今後も引き続き案内をおこなっていく。	4
II 地域社会・産業に寄与する学校	③「地域農業の生産を支える」教育を行います。	出前授業やインターンシップをととして先進農家の生産技術や経営感覚を養う。	檜山振興局と連携し、地域の農場訪問や、本校施設での出前授業を実施した。	単発的な学習であった為、通年を通して地域農業と関わる学習を進めていく必要がある。	4
	④「地域の農業関連産業に寄与する」教育を行います。	地域学習を行い地域の農業関連産業について学ぶ。また、農業後継者や理解者の育成を行う。	主に地域の特産品の栽培を通し、地域の特色や課題を理解する学習を実施した。	地域の課題を実際に解決する為のプロジェクト学習をおこなっていく必要がある。	4
III 地球環境を守り創造する学校	⑤「地球環境を守り創造する」教育を行います。	地域環境の現状を把握し、GAPや有機JAS、農薬、化学肥料について学習を深める。	GAPを取り入れた農場運営をおこない、農産物の安全性の確保やその経営方法についての学習を実施した。	GAPの基準を満たしていない部分があり、改善が必要である。	4
	⑥「食農」教育を推進します。	食について興味関心を持たせ、食を介した小中学校等の異校種交流を実施する。	今後の実施に向けて、関係機関への提案を実施した。	まだ提案段階であり、今後の実施に向けて引き続き計画の作成及び調整が必要である。	3
IV 地域交流の拠点となる学校	⑦「地域資源を活用する」教育を行います。	地域資源を活用した加工品の製造及び販売を行い、地域の活性化につなげる。	地域で生産されたイチゴやブルーベリーを用い、ジャムの製造及び販売を実施した。	学校での販売会を地域住民に対してさらにPRしていく必要がある。	5
	⑧「地域交流の拠点となる」教育を行います。	異校種及び異年齢交流を実施する。地域で行われている各種行事へ参加する。	今金高等養護学校と連携し、花壇整備活動を実施した。	特になし	5
V 地域防災を推進する学校	⑨機関・団体と連携した」教育を行います。	地域にある農業改良センターや振興局との連携を行う。	檜山振興局での鉢花販売会活動や、出前授業などの連携した教育活動を実施した。	地域農業の振興に向けてより対外的にPRしていく機会が必要である。	4
	⑩「地域防災を推進する」教育を行います	防災教育・安全教育を推進する。	地域の環境や土地についての学習を行い、防災教育を実施した。	地域の人材資源を活用した、出前授業などの学習が必要である。	5